



志位和夫



はたの君枝



さいとう和子

発行 日本共産党国会議員団

2021年11月 南関東ブロック事務所

横浜市神奈川区西神奈川1-10-16

斎藤ビル2F Tel. 045-324-6516

国会活動報告

草の根からの世論と運動で 政治変える新たなたたかいを

国会議員団総会で志位委員長があいさつ

総選挙後の第206回特別国会が11月10日召集され、岸田首相が選出されました。志位和夫委員長は党国会議員団総会のあいさつで、日本共産党と立憲民主党が共通政策・政権協力で公党間で合意し国民への公約である事から、首相指名選挙では枝野幸男代表に投票する事を表明。「岸田政権の行動は国民が退場を求めた安倍・菅政治の継承となる。あらゆる分野で草の根から国民的な世論と運動を起こし、岸田政権を包囲して政治を変える新たなたたかいに臨もう」と決意を述べました。



志位氏は総選挙の結果について「4年前の総選挙と比較で、政党間の力関係がどう変わったか」「与党勢力が議席数を減らし、〈与党の補完勢力〉が議席数でも減らしたのに対し、〈共闘勢力〉は比例得票数でも議席数でも増やしたと強調。「市民と野党の共闘が、さまざまな困難や逆流をのりこえながら努力を積み重ねてきたことの確かな成果が示されている」と述べました。また市民と野党の共闘の成果については、「野党が初めて、共通政策や選挙協力の合意を実現した。59の小選挙区で一本化した候補者が勝利、33選挙区では自民党の得票の90%以上に迫った」と力説。課題について志位氏は、野党共闘への攻撃や、「共闘の大義・魅力」を伝える上で弱点があったと反省点をあげました。志位氏は「日本の政治を変える道は共闘しかない。共闘を揺るがず発展させるために、あらゆる知恵と力を尽くす」と決意を表明しました。

共産党の値打ち広げる活動へ



会見するはたの氏
=10月31日川崎市
幸区の事務所にて

今回まいた種、次は花開かせる はたのさん

10月31日夜、神奈川10区事

務所ではたの君枝氏は、小選挙区での選挙結果を受けて会見。「10区で初めて野党と市民の本格的共闘が実現し、議席獲得はできなかったが、自公政権に代わる政権実現の第一歩を踏み出すことができた」、『なんてん神奈川10区の会』が、連日の夜の「おかえりなさい宣伝」への参加などで奮闘されたことに感謝を表明し、「今回まいた種を、次は花開かせる。10区から政権交代の扉を開けるよう、市民のみなさんと力を合わせたい。共産党も、もっと力をつける」と決意を述べました。「なんてん」共同代表の長谷川三千代さんは「今回は『なんてん』としても、10区選対と協力して一生懸命とりくんだ。議席に結び付けられなかったのは残念」と話しました。

教訓を生かして次へ 比例・さいとうさん

さいとう和子比例候補は10月31日深夜、党千葉県委員会で、衆院選の開票結果を受けて会見しました。さいとう氏は「今回の選挙は新しい息吹を感じる選挙だった」と述べ、「若い人たちが真剣にこの世の中をどう変えていくのかを考えはじめている。そういう人だちと結びついていくことが大事だ」と話しました。その上で、「当選には至らなかったけれど次につながるたたかいができた選挙だった。今回の選挙で学んだ教訓を生かして次の選挙に向けて頑張ります」と力を込めました。



会見する、さいとう氏(左)と、小倉
千葉県委員長=10月31日千葉市

スモモ輸入解禁に抗議 党山梨県委農水省に産地支援要請

党山梨県委員会は10月5日、農水大臣に対しスモモ輸入解禁に抗議し、今後の産地支援を要請しました。ごし智子県議、名取泰、松野昇平、両南アルプス市議が参加。はたの氏、さいとう氏、沼上とくみつ氏が同席しました。

要詔書では「産地に連絡もなく米国産スモモが輸入され、市場で販売されていることに強く抗議する」と訴え、▲国内産の価格低下への所得補償、▲輸入にあたり国会審議や産地の意見を反映し、安易な輸入をしないことなどを求めています。

農水省担当者は「防疫体制に問題なく解禁にした。国内産に影響はない。民間取引なので輸入量はわからない」と答えました。名取氏は産地である南アルプス市農家の怒りを紹介、「国内産と競合しないと、なぜわかるのか」と述べ、輸入品の品質・価格等の調査を要請。はたの氏は「山梨の農業にどう影響があるかを考えていない」と批判しました。



(左から)ごし智子県議、名取やすし、松野昇平両市議、はたの氏、沼上氏、さいとう氏ら=10月5日国会

2つの米軍施設跡地の問題で要請 神奈川

米軍施設跡地の汚染土壌は除去を 米軍上瀬谷基地



(右から)沼上氏、はたの氏、(左から二人目)かわじ民夫横浜市議ら=9月30日国会

「米軍上瀬谷基地返還と跡地利用問題懇談会」は9月30日、旧・上瀬谷基地(横浜市瀬谷・旭区)跡地の汚染土壌の完全撤去を求める署名10,376筆、団体署名240団体分を岸防衛相(当時)にあてて提出し、省担当者に対策を要請しました。静岡理工科大学の惣田信夫氏、はたの氏、沼上氏、かわじ民夫横浜市議が同席しました。

2019年から2020年にかけて防衛省が同基地跡地の国有地部分の土壌汚染調査した結果、国の基準値を超える鉛などの有害物質が56カ所で検出されました。跡地では27年に国際園芸博覧会(花博)が開催される予定で、花博後には横浜市は複合的集客施設の誘致を計画しています。

参加者は、米軍が原状回復しないのであれば、国が責任を持って掘削による汚染土壌の完全除去をするべきだと求めました。はたの氏は、汚染土壌対策を行う上での責任の所在を明らかにするよう求めました。

アスベスト(石綿)の不安に説明を 米軍根岸住宅地区

在日米海軍が管理する米軍根岸住宅地区(横浜市中・南・磯子区)に囲まれた中で生活する、佐治実さん、みどりさん夫妻は9月30日、同地区返還に伴う、施設内の住宅解体工事について、防衛省に申し入れました。はたの氏、沼上氏、かわじ市議らが同席しました。同住宅地区は、2004年に全ての返還を日米で合意し、今年7月から原状復帰に向けた住宅の解体工事が始まりましたが、住宅建材等にアスベストが含まれている事がわかってます。

佐治さん夫妻は「5月にアスベストの問題について説明を求めたが、何の報告もなかった。工事が始まる際、南関東防衛局に施工計画書の閲覧を求めたら『計画書はない』といわれた。非常に不安だ」と訴えました。同省担当者は、防衛局の説明に誤りがあったことを謝罪し「アスベストは法に基づき適切に作業をしている。今後は丁寧な情報提供に努める」とこたえました。

実さんは、アスベストの保管、運搬、処分方法等について再度の説明を求めました。



防衛省に申し入れる、(左から)はたの氏、佐治夫妻=9月30日国会